

所 報

題字：武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第194号 令和7年 8月 20日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

(主な内容)

・ 江別市教職員夏期セミナー実施報告

江別市教職員夏期セミナー実施報告

教職員のスキルアップを目的とした今年度の江別市教職員夏期セミナーは、7月28日(月)、29日(火)、31日(木)の3日間にわたり、「今日的な教育課題への対応」や、「いじめ・不登校対策」、「ICT 機器の有効活用」等、6つの講座が実施されました。今年度も、各校から各講座に積極的に参加していただくなど、予定通り実施させて頂くことができました。この場をお借りし、皆様からのご協力に対しまして、感謝申し上げます。

講座①の「今日的な教育課題」では、北海道立教育研究所の研究主幹 木挽 ひろみ氏・寺田 紳 氏より、講座の前半では、現行の学習指導要領が中間期を向かえ、各校でその趣旨を押さえた取り組みが着実に実施されているかの確認と、次期改訂に向けた展望について、講座の後半では、ワーキンググループということで、目標の達成に向けた組織づくりと、ウェルビーイングの充実を図る人材育成をどう進めていくかについて、分かり易くお話していただきました。

参加者からは「座学ばかりではなく、グループ協議の時間も多く設定して頂いたので、バランスが良かったと思います。」「今日の教育的動向について、情報を積極的に取り入れていくことの大切さを改めて実感しました。」「自分の働き方や自校の現状を見つめる良い機会となりました。」などの感想が聞かれ、大変有意義な研修となりました。



夏期セミナー第一講座の様子



夏期セミナー第二講座グループ協議の様子

講座②の「特別支援教育」では、道立特別支援教育センター聴覚・言語障がい教育室長 島田 慎平 氏より、児童生徒の数は、年々減少しているが、特別支援教育を必要とする児童生徒の数は年々増えている現状についてと、その増えていく児童生徒への対応として、その多様性を認め、子ども達の視点に立った支援を進めていく大切さについて、ご教授していただくことができました。また、講話の後半では、障がい別に対応の具体について紹介して頂き、私たちの支援の視点を広げさせていただく講座となりました。

参加者からは「発達障がいについて、概ね理解しているつもりでしたが、詳しく学び直すことで、改めて支援方法を見つめ直す機会となりました。」「演習では他校の様子や各先生の考えを知ることができ、良い研修の時間となりました。」などの感想が聞かれ、実践に反映できる大変有意義な研修となりました。

講座③の「ヤングケアラーの実情と対応」では、北海道ケアラズ代表理事 加藤 高一郎 氏より、その実態として知られる機会が少ない、江別市内の状況についての情報や、家庭内案件としてデリケートな対応が必要な問題であったり、時としてネグレクトや虐待等につながる難しい問題に対して、どう対処していくことが大切なのかを、ご示唆いただく講座となりました。

参加者からは「ヤングケアラーとネグレクトの境を確認することができ、ありがたかったです。」「講座を通して、サポートセンターが子どもの土俵に立って支援してください



夏期セミナー第三講座グループ協議の様子

っていることが分かりました。」などの感想が聞かれ、これからの支援に反映できる有意義な研修となりました。



夏期セミナー第四講座の様子

講座④の「GIGAスクール構想の推進」では、富士電機ＩＴソリューション株式会社から講師を派遣して頂き、前半では、江別市内で新しく更新されるタブレット端末の紹介、後半では、授業等で有効に活用できるアプリ：オクリンクプラス（新しくライセンス使用が可能となるアプリ）を使った演習講座を開設していただきました。

参加者からは、「ミライシードの利点、活用方法が分かりやすく理解できました。校内準備が整い次第、全校で活用していきたいと思っています。」、「ホワイトボードのツールをいろいろ使いましたが、オクリンクプラスもぜひ使ってみてみたいと思いました。有効な活用方法を夏休みに勉強して、夏休み明けから活用してみたいです。」などの感想が聞かれ、各校の実践改善に反映できる有意義な研修となりました。

講座⑤の「ソーシャルメディアの現状」では、情報通信技術支援員 長野 修二 氏より、「リアルであってもバーチャルであっても、人と人が関わる中では、トラブルは避けられない。ハイリスクを避けるためには、対人コミュニケーション能力と、足りない表現をカバーする言語活動の支援が大切になってくる。」との話があり、誤解を招く会話等の具体について詳しく紹介していただくことができました。

参加者からは「毎年情報モラル教室を行っているのですが、まさにモグラたたきのような事例研修が多く、今回のように本質を突いたものが必要だと感じました。」「SNSの扱いについてはどの学校においても課題です。お話からたくさんヒントを頂きました。」などの感想が聞かれ、これからの実践に反映できる有意義な研修となりました。



夏期セミナー第五講座の様子



夏期セミナー第6講座の様子

講座⑥の「いじめ・不登校生徒への対策」では、前半は、市教育委員会教育支援課の専任指導員 岩倉 隆氏より、R6 年度に江別市で立ち上げられたネクストについての紹介（施設の目的：子ども達が安心して過ごすことのできる居場所づくり）について、後半は、江別市教育委員会教育支援課 S W 田村 千波 氏より、社会の現状から不登校を減らすことは難しく、その課題に改めてどう立ち向かっていくか、不登校のケースを分類分けする中で、その具体について紹介して頂きました。

参加者からも「ネクストについて初めて詳しく知ることができました。今までは不登校児童の家庭にネクストのプリントを渡すだけでしたが、次からはネクストについて説明し、強く進めることができそうです。」「事例検討をとおして、グループ内の先生方の考えに触れたり、

他のグループの見解を聞いたりすることを通して、児童への指導や対応を見つめなおす貴重な機会となりました。」などの感想が聞かれ、現場での実践に直接反映できる有意義な研修となりました。

各講座の終了後に、講座内容に対するアンケートを実施しましたが、評価では（大変良かった、良かった、普通、あまり参考にならなかった、参考にならなかった：５段階評価）、「大変良かった」と「良かった」が全体の９割を超えるなど、高評価を得る研修となりましたが、反面で、初めての試みとして実施したりリモート研修では、説明が一方通行になるなど、課題も残る結果となりました。また、講座の内容に関する希望では、「今後、多くなるであろう外国人生徒への対応に関する講座」「学校現場で活用する生成ＡＩについて、学べる講座」「デジタル教科書の有効な活用方法に関する講座」等の意見もいただくこともできました。これらの意見については、次年度の計画に反映させ江別市教職員夏期セミナーが益々充実させられるように進めていきたいと考えています。